



2010年度前期 キャンパスニュース

八頭町の環境共生まちづくりに貢献！学校給食車がバイオ燃料で運行開始

平成22年5月11日(火) 八頭町郡家学校給食共同調理場で、学校給食車バイオディーゼル燃料運行開始式典が行われました。本学は、昨年8月に八頭町(鳥取県)と循環型地域の形成、地域の活性化に向けた取り組みを相互に連携・協力して進める協定を締結し、「中山間地域(八頭町)の環境共生まちづくりと地域活性化に関する研究」に取り組んでいます。その一環として、循環型地域をめざし、八頭町内の学校給食調理場から出る廃食用油をバイオ燃料に精製し、給食配送用車両の燃料として使用することになりました。

運行開始式典終了後、配送車両は町内各小・中学校に向け出発し、本学と八頭町が取り組む環境共生まちづくりがまた一步、動き出しました。



めざせSE！～基本情報技術者資格取得講座～ 開講

平成22年5月15日(土) 「めざせSE！～基本情報技術者資格取得講座～」と銘打った特別講座がスタートしました。講師は、IT育成支援企業として鳥取県及び鳥取市から認定を受けている株式会社LASSIC(システム設計・開発、本社：鳥取市)の社員の皆さん。受講生は、本学情報システム学科生22名。IT専門職を目指す学生へのエントリー資格として実績のある国家資格「基本情報技術者試験」の合格を目指します。

学生にとっては、資格試験合格のためのノウハウを得るだけではなく、IT業界の最前线で活かされている知識・技術の習得なども期待され、SE(システム・エンジニア)という具体的な職業に興味を持つなど、各々が目標を掲げて取り組んでいます。



平成22年度 鳥取環境大学 奨学生が決定しました

平成22年5月28日(金) 本学学長室にて、「平成22年度 鳥取環境大学奨学生交付式」が行われました。

本奨学生は、学業奨励及び学内の活性化を目的に平成21年度より創設された本学独自の制度で、高校時代に環境活動の実績がある学生を対象とした「環境活動部門」、また高校時代に文化・スポーツ活動において全国大会等の出場実績がある学生を対象とした「文化・スポーツ活動部門」、本学入学後、学業成績が優秀な学生を対象とした「成績優秀部門」の3部門から奨学生が支給されます。

古澤学長より交付決定通知を交付された後、環境マネジメント学科2年の赤澤ひとみさんが22名の奨学生を代表し、「学業はもちろんのこと、課外活動でも積極的に活動していく」と、これから的生活の抱負を述べました。



本学学生が 環境計量士(濃度)に合格

この度、環境政策学科3年の笠崎 大さんが「環境計量士(濃度)」に合格しました。環境計量士は、環境に関する濃度、騒音・振動の機器や計量手法を管理し、数値が正しいことを証明する業務に必要な国家資格です。一般的の関係業務に携わっている社会人が多く含まれる中、合格率10%程度で、環境に関する資格の中では最難関と言われています。

笠崎さんは熊本県出身で小学生の時に水俣病を知り、環境問題に興味を持って本学に進学しました。昨年12月には「公害防止管理者(水質1種)資格」も取得しました。公害防止管理者資格は、大気、水質、騒音・振動などに分かれしており、特定工場には資格取得者を置くことが義務付けられている国家資格で、水質1種(1種～4種があり、1種が最も範囲も広く、難しい)の合格率は20%程度となっています。

笠崎さんは公害防止管理者の資格取得のために、環境監査が専門である衣川教授に指導を受けるとともに、毎日3時間の学習を3ヶ月間、また環境計量士では1日3時間を半年間、直前の2ヶ月は8時間の勉強を続けたそうです。将来はこれらの資格を生かして、地元の九州で水道局に勤務し、きれいな水環境を守る仕事をしたいと抱負を語ってくれました。

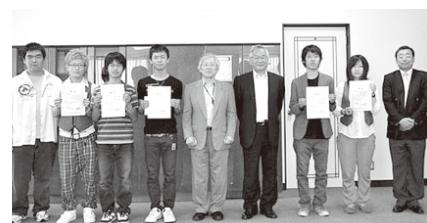


研究所拠点施設学生アイディアコンテスト表彰式を開催

平成22年6月16日(水) 本学が主催する「鳥取環境大学サステイナビリティ研究所拠点 施設学生アイデアコンテスト」の表彰式が学長室において執り行われました。このコンテストは研究拠点施設の建築計画において、本学の特徴を生かした意匠、機能、自然エネルギー活用、コスト縮減などについて、木造建築としてのアイディア募集を目的に本学学生を対象に行ったもので、審査の結果優秀賞2点、特別賞2点、奨励賞4点が選出されました。

田中研究所整備検討委員会委員長からは「様々なアイディアの中から、特に機能性の面を重視して、優れたアイディアを可能な限り設計に反映するようにしたい」と述べられ、また、各受賞作品に対して講評されました。

鳥取環境大学サステイナビリティ研究所は平成22年度末に完成予定で、本学構内のビオトープ東側緑地内に建設予定です。



奈良平城遷都1300年祭にて、学生が「しゃんしゃん傘踊り」を披露

平成22年6月27日(日) 奈良県で開催された「平城遷都1300年祭」で、「鳥取県の日」として県の文化・歴史などの魅力をPRするイベントが開かれ、本学の学生7名が、交流広場まほろばステージに出演、「鳥取しゃんしゃん傘踊り」を披露しました。

はじめに学生が振り付けた創作踊りを2曲、その後、奈良鳥取県人会と一緒に伝統の基本踊り2曲の計4曲を披露しました。学生の元気なかけ声と躍動感溢れる息の合った傘踊りに、会場からは拍手喝采！また、奈良鳥取県人会は、「関西・とっとりすきやねん連」として、鳥取市で毎年8月に開催される鳥取しゃんしゃん祭に参加されていますが、本学学生と一緒に楽しく傘踊りできたことを、大変喜ばれていました。若い力で鳥取をPRできたとともに、奈良と鳥取を結ぶ良い交流の場となりました。



韓国・翰林(ハンリム)大学の学生が来学

平成22年7月14日(水) 烏取県西伯郡南部町の国際交流協会が主催する「韓国ハンリム大学学生ホームステイ事業」の一環として、韓国江原道春川市にあるハンリム大学日本学科の学生9名が来学し、本学学生5名と親睦をはかりました。本学との交流は今年で6年目となります。

当日は、互いに自己紹介をした後、学食で会食をしました。ハンリム大学では、ランチメニューが120円の定食1種類しかないので、自分でおかずを自由に選ぶことのできる本学の学食に驚いていました。その後、「鳥取砂丘」とアフリカをテーマにした砂の彫刻が並ぶ「砂の美術館」を訪問し、鳥取ならではの広大な自然を満喫しました。別れ際には互いのメールアドレスを交換するなど、今年も新たなる学生同士の交流の輪が生まれていました。



公衆衛生学会で 本学環境政策学科の学生が発表

平成22年7月16日(金) 倉吉交流プラザで開催された「第53回鳥取県公衆衛生学会」において、環境政策学科4年の、椿 和也君、国好美波さん、杉原広晃君の3人が、10年程度の人工衛星データを用いた地球規模の降雨量の変化の傾向に関する発表をそれぞれ行いました。

これら3件の発表は、同学会では最年少である学部学生の発表でしたが、好評をもって受け入れられました。そして、全22件中、すぐれた口頭発表2件のうちの1件に、杉原広晃君(環境政策学科4年)が選ばれ、鳥取県代表として、8月25日(水)に松江市で開催された「第56回中国地区公衆衛生学会(環境衛生・環境保全分野)」で、上記3件の発表を纏めた「TRMM(熱帯降雨観測衛星)降雨レーダーで観測した全球の降雨量の長期トレンド」を発表しました。

なお、鳥取県公衆衛生学会への本学からの参加は初めてのことでしたが、学会関係者の方からは今後も本学からの参加を期待したいとのコメントをいただきました。

「環境」でつながる4つの大学の連携事業スタート

学部・学科の名称に「環境」を含み、環境教育に力を入れる、人間環境大学(愛知県)、豊橋技術科学大学(愛知県)、京都学園大学(京都府)、本学の4大学が、「環境マインド要請カリキュラム」をテーマに、平成21年9月協定書を締結(※注)以来初となる、

第1回シンポジウムを、人間環境大学において10月30日(土)に開催しました。

4つの大学はその他にも、4月より実施中の、自校のキャンパスにいながら4大学の授業を受講・単位取得できる、テレビ会議システムを利用した相互利用(単位互換)や、9月に鳥取の八頭郡智頭町芦津で行われた共同フィールドワーク等で連携を深めています。(※注)文部科学省より補助を受け、4大学が連携して取り組んでいる、「大学学部教育における『環境教育』共通カリキュラム開発のための戦略的大学連携」事業。



衣川教授が平成22年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰を受賞

平成22年11月2日(火) 環境政策経営学科 衣川益弘 教授が「平成22年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰功労者表彰」を受賞されました。衣川教授は、平成14年に行政や消費者団体等と共に「グリーン購入とっとりネット」を立ち上げ、グリーン購入の推進に大きく貢献されました。平成18年には、企業との共同研究でハンダのリサイクル技術を開発。その他、鳥取県版環境管理システム(TEAS)の規格の立ち上げに携わり環境教育に尽力され、平成22年3月には、鳥取県の平井知事より「鳥取県循環型社会推進功労者知事表彰」を受賞しており、学内外での環境教育活動などの功績が認められ、このたびの受賞となりました。



米子-鳥取間駅伝競走大会 3年連続出場

平成22年11月6日(土)、7日(日) 第65回米子-鳥取間駅伝競走大会に本学陸上部駅伝チームが3年連続で出場し、111.1kmを7時間23分47秒で走りきました。(57チーム中49位)3区環境デザイン学科3年押方君が一般の部10位、11区環境政策学科3年川本君が一般の部13位、最終区環境政策学科4年坂爪君は一般の部12位という好成績を収めました。

-出場者一覧-

〈1日目〉

1区:昌子俊介(建築・環境デザイン学科1年)

- 2区:山崎拓哉(環境政策学科3年)
3区:押方功次朗(環境デザイン学科3年)
4区:森 誉史(環境マネジメント学科1年)
5区:玉川理美(環境政策学科3年)
6区:笠崎 大(環境政策学科3年)
7区:児玉竜治(情報システム学科4年)
8区:原 聖史(環境政策学科3年)
(2日目)
9区:金谷龍馬(環境政策学科3年)
10区:漁野昌之(環境政策学科4年)
11区:川本幸洋(環境政策学科3年)
12区:近藤孝紀(環境政策学科4年)
13区:吉田導夫(環境政策学科3年)
14区:渡邊喜美久(環境マネジメント学科1年)
15区:坂爪兆太(環境政策学科4年)



本学学生が平成22年度優秀学生顕彰(日本学生支援機構)の優秀賞を受賞

日本学生支援機構の平成22年度優秀学生顕彰に応募した環境デザイン学科3年の長 毅さんが、社会貢献部門で優秀賞を受賞しました。

〈受賞概要〉

地球温暖化防止のためサークルを立ち上げ、メンバーを集め、勉強会を実施。環境省の温暖化防止の事業に参加し、全国の温暖化防止活動を調査。また、鳥取県に地球温暖化防止活動推進センターを設立し運営を行っていることが評価されました。

長さんが理事を勤める「特定非営利法人ECOフューチャーとっとり」は、平成22年6月に鳥取県より「鳥取県地球温暖化防止活動推進センター」の指定を受けました。本学岡崎副学長が理事長を、環境政策経営学科 衣川教授・本学学生2名・地域住民が理事を、環境マネジメント学科 藤沼教授が監事として参画しており、各都道府県にあるセンターの中でも、全国で初めて大学が主体的に関わっている特色あるセンターです。8月に本学と連携・協力に関する協定を結び、本学に拠点を置いて地球温暖化防止に向けたさまざまな活動を行っています。

〈日本学生支援機構 優秀学生顕彰事業〉学術、文化、芸術、スポーツ、社会貢献の各分野で優れた業績を挙げた学生に対して、これを奨励・支援し、21世紀を担う前途有望な人材の育成に資することを目的とした事業。



今年度の全国からの応募者数は130名。厳正な審査を経て、各分野合わせて、大賞10名、優秀賞19名、奨励賞30名が選ばれました。